

(2) 施策の方針

第5章 安全で快適な生活が送れるまち

分野(1) 防災・安全

施策の方針② 危機管理対策

<目標とすべきまちの姿>

武力攻撃事態やテロなどあらゆる危機事象を想定した体制が整備されており、市民の生命・財産は安心して守られている状況になっています。

1 事業評価結果一覧表

防災安全部

評価対象事業名		決算値 (千円)	総事業費 (千円)	26年度 職員数 (人)	今後の方向性	
整理番号	事業名				事業内容	予算規模
防安-01	危機管理推進事業	2,762	25,093	3.0	a	A

都市整備部

評価対象事業名		決算値 (千円)	総事業費 (千円)	26年度 職員数 (人)	今後の方向性	
整理番号	事業名				事業内容	予算規模
都整-43	放射性物質測定事業	3,034	6,749	0.5	b	B

2 平成26年度末の目標

防災安全部

・職員一人ひとりの危機管理意識の向上と危機管理体制の強化・充実

都市整備部

給食食材等の放射性物質の測定を行うことにより、市民生活の安全を確保する。

3 平成26年度の取組の評価

防災安全部

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

・危機管理意識の向上を目的とした職員向け訓練・研修を実施した。
・危機管理体制の強化充実のための緊急用備蓄品の整備を行った。

都市整備部

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

市立小学校及び保育園等の給食食材の放射性物質測定を毎日実施し、更に他課からの依頼により土壌やプール水等についても測定を実施しているため、業務の更なる効率化を図る必要から、市立小学校及び保育園等の給食食材の測定業務については、実施方法や予算対応を関連課と調整した上で実施した。また、給食食材の測定については担当者会議を開催し、27年度事業の各種調整を行った。

4 今後の方向性

防災安全部

緊急時を勘案して事業の推進を図る。

都市整備部

今後も業務量は増大することが見込まれるが、効率的かつ円滑的な運営を目指す。

5 平成27年度末の目標

防災安全部

さまざまな危機管理事象に備えた対策を推進するため、職員や市民の危機意識を醸成させる研修や講座を開催するとともに、地震災害時業務継続計画(BCP)の実行性を高めるために図上訓練や職員対応備蓄品を確保する。また、危機事象に対応する人員の配置及び、育成を図り、危機管理体制の強化・充実を進める。

都市整備部

測定業務に従事する人員や予算確保など、制約のある中で関連課との調整を図り、効率的な運営を目指す。

鎌倉市民評価委員会の評価

1 評価できるところ

- ・自主防災組織の活動への支援(防災資機材等の購入補助)、自主防災組織が行う防災訓練等の支援などを行った。
- ・職員一人ひとりの危機管理意識の向上をはかった。

2 課題・提言

- ・行政と自主防災組織など地域の連携の更なる推進が課題である。
- ・集中豪雨や台風など、がけ崩れや土砂の流出等による災害の発生を防ぐため、防災工事は今後も多く発生していく可能性が高まっており、課題として認識すべきである。
- ・危機管理として武力攻撃事態やテロを想定した体制づくりが整備されているとあるが、鎌倉における危機は何か、さまざまな危機管理対策を考慮願う。